

中間素案へ意見書を提出

逐次刊行物

〒12.2.-8

立梯人教育会

教育センター

11月初旬、長崎県男女共同参画懇話会がまとめた「長崎県男女共同参画計画策定に対する提言」の中間素案が公表され、各方面へ広く意見が求められることになりました。私たちはまず、このことを評価したいと思います。ばってん・うーまんの会もこれを受けて何回か集まり時間の許すかぎり読み合わせて討議し、10枚にわたる意見書をまとめて22日県男女共同参画室の小宮室長に手渡しました。

単なる意識啓発でなく変革の視点でーと

北京会議後に女性プランの見直しや策定を行ったのは九州では山口・福岡・佐賀・宮崎・沖縄の5県でした。「行動綱領」及び「2000年方」には「女性に対する暴力」「生涯を通じた女性の健康支援（リプロの問題）」「男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革」「公的機関の策定する広報・出版物等における性にとらわれない表現の促進」「積極的参画措置」「行政への苦情や人権侵害への対処機関の設置」が新たに取り入れられ、また単なる意識啓発でなく、社会システムや慣行という「枠組み」を変革していく必要性が強調されています。ばってん・うーまんの会はそのような視点で中間素案を読み、いくつかの項目を作って意見を書き添え提出しました。平成12年3月に策定が予定されている県の新たな行動計画は他県に勝るとも劣らない、しっかりした内容が盛り込まれたものであることを期待したいと思います。

意見の一部として

<あいまいなことば、抜け道となるようなことば、どうしても解釈できるような表現はこれからの社会をめざした表現へ>

例

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| ・男女共にやさしく支え合う社会 | ・男女共に人権が保障される社会 |
| ・男女平等教育 | ・ジェンダーフリーの教育 |
| ・女性が安心して生活できる環境 | ・女性に対する暴力は犯罪であるとの社会認識の浸透 |
| ・女性に対する暴力を禁止する環境作りを | ・暴力を禁止する条例の制定を |
| ・妊娠・出産に対する保健医療対策の充実 | ・～と、費用の医療保険化を |

<数値目標、達成度、具体的施策の表記へ>

例

- | | |
|---------------------|----------------------------------|
| ・政策方針決定の過程への女性の参画 | ・公的なあらゆる場において、4割越えて一方の性に片寄らないように |
| ・学校における男女平等教育の推進 | ・男女五十音順混合名簿を基本においたジェンダーフリー教育の推進 |
| ・女性の能力を高める | ・能力を高めるための具体的施策を実施する |
| ・外国人が安心して生活できるようにする | ・外国人の配偶者名も住民票に記載するようにする |

<女性の能力が低いから女性行政があるのではなく、女性の能力が生かされなかった社会組織や背景の改革と施策へ>

例

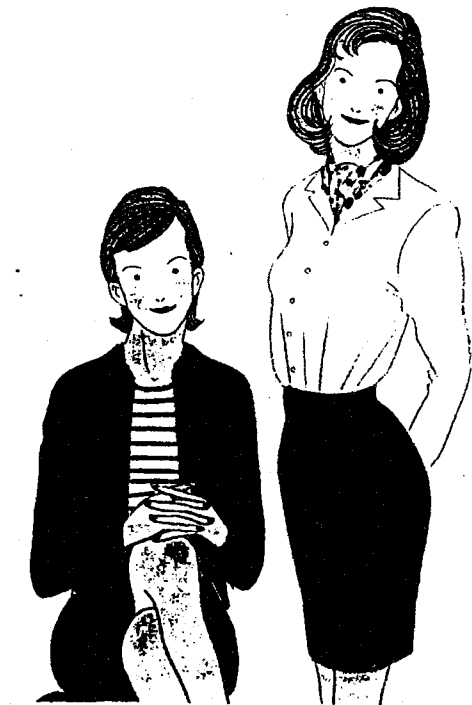
- | | |
|-----------------|-----------------------------------|
| ・女性自身の参画の意識を高める | ・女性が参画しやすいように、組織・会則等を見直す |
| ・女性の能力向上を | ・女性が能力を発揮できるように、地域社会・企業社会の意識改革をする |
| ・女性に勉強してもらう | ・男性が、性別にこだわることなく公平に人材を見抜く目を養成する |
| ・女性の職業意識の育成を | ・育成の具体的支援策を |

* なお、審議会・各種委員会における女性委員の登用率は今後の行動計画の重点課題と考え、まず「官公庁で率先して実行し、企業等へモデルを示して啓発する」とし、「目標の具体的数値を高く掲げることが大切」と、九州各県の登用率の資料を添えて要請した。

ぜひ実行して欲しい具体的施策

- 1、「長崎県男女平等推進基本条例」を制定すること
- 2、マシーナリーの強化をはかること

「男女共同参画推進本部」を新たに設置し、従来の生活環境部の一部署から知事直属にしてすべての行政部署に対して総合調整機能と強い権限を持たせることにより、女性行政の徹底をはかること。(資料の添付)
- 3、各種審議会、委員会および公的機関の部・課長への女性の登用目標値を設定し、各年度ごとの目標を定めること
- 4、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアルハラスメント等の多発を深刻にとらえ、女性に対する暴力の根絶をめざす具体的施策を明らかにし、男性の意識を改革する教育を特に推進すること



ようこそ長崎へ、田嶋陽子さん！



法政大学教授で、英文学・女性学・男性学を講義する一方、巷へ出て実戦的フェミニズムで戦ってくれている田嶋陽子さんが長崎市で講演しました。

社団法人・長崎法人会が創立30周年の記念式典の講演会に招いたもので、講演の題は「21世紀のあるべき姿」ということでした。

わざわざここでこのことを取り上げたのは2つの大事なことが考えられたからです。

1つは、その講演内容です。

「21世紀のあるべき姿」として「日本のこの男女の関係を变えること」とし、一連の警察キャリアの不祥事をみると男たちがいかに未成熟で自立していないかということであり、それは女たちが男に仕えるボチになってしまっていることにも原因があること。女に対等な人権感覚を持てず、主人とボチの間柄で育っていった、何で21世紀の国際社会を乗り切ることができようかと言う主旨をとうとうと述べられました。「とうとうと」というのは、満場の人達をおそらく、誰ひとりとして飽かせなかったと思うからです。

”あるべき姿”として、”女にきちんと向かい合うことができること”という視点から長崎の経済界に切り込んだのは田嶋さんが初めてだったのではないかと思います。

2つ目は、田嶋さんが日頃どんな発言をしているのかを知っていて彼女に講演を依頼した(と思われる)長崎法人会の今日的な姿勢を評価します。講師紹介に立った会長の野崎氏の、田嶋さんを紹介する内容がそれをよく物語っており、閉会挨拶をした中川氏のお礼のことばも快く聞くことができました。会場がこんなに満杯になったのは発足以来初めてだということでした。

それにしても、今夏私達が怒った長崎県町村議長の講師人選との違いはどうでしょう。8月に招いた筑波大教授・中川八洋氏は戦争肯定、女性蔑視の講演をし、私達の抗議にいまもって姿をくらましています。町村議長の講師選びは人任せで責任逃れに終始しており、会報にも書きましたがほんとうに”未成熟な男たち”です。こんな人たちに地方自治を託しているのかと考えると、ほんとうに深刻な問題です。

田嶋さん、さわやかな風を ありがとう

会報を読んでいるみなさんもどうぞ良いお年をお迎えください。